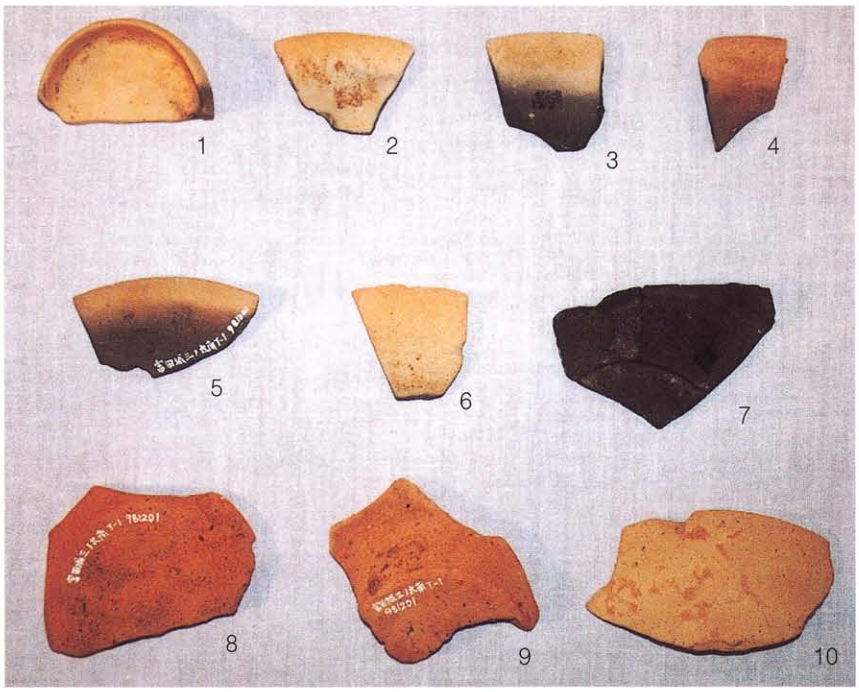
図版24



三ノ丸地区　第1トレンチ出土遺物

22

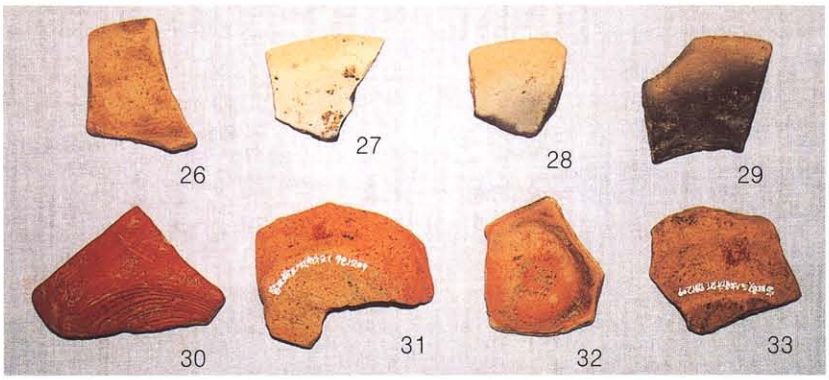
23

24

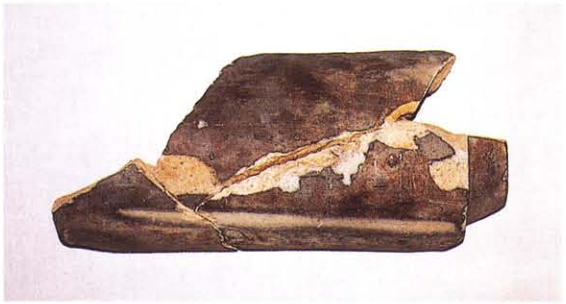
25

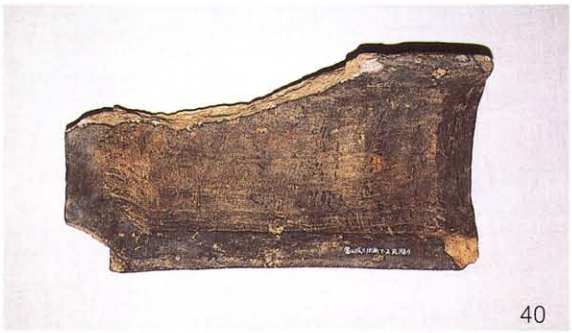
三ノ丸地区　第1トレンチ出土遺物

図版26

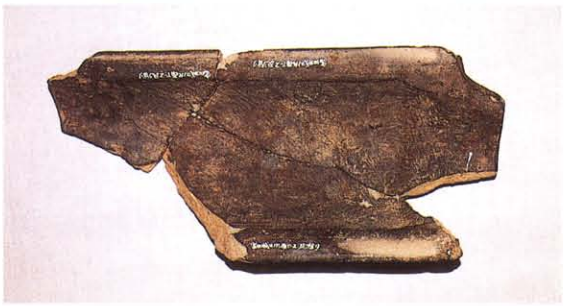


三ノ丸地区　第２トレンチ出土遺物

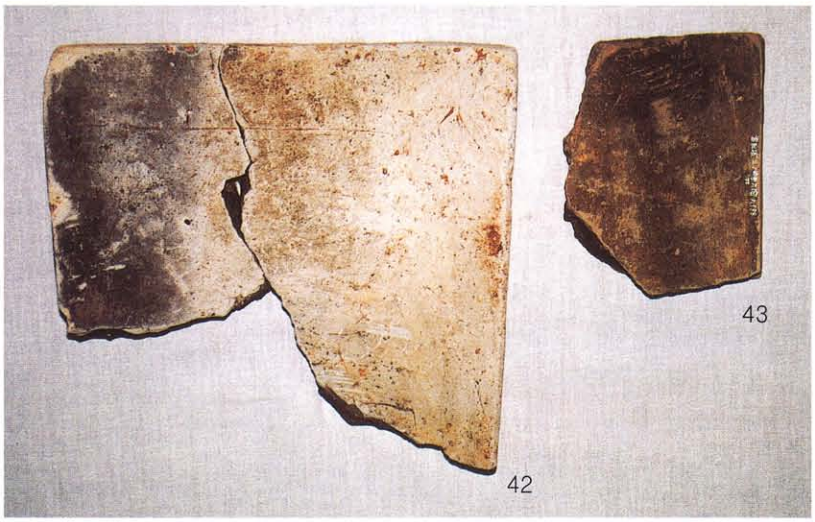




40



41



42

43

三ノ丸地区　第２トレンチ出土遺物

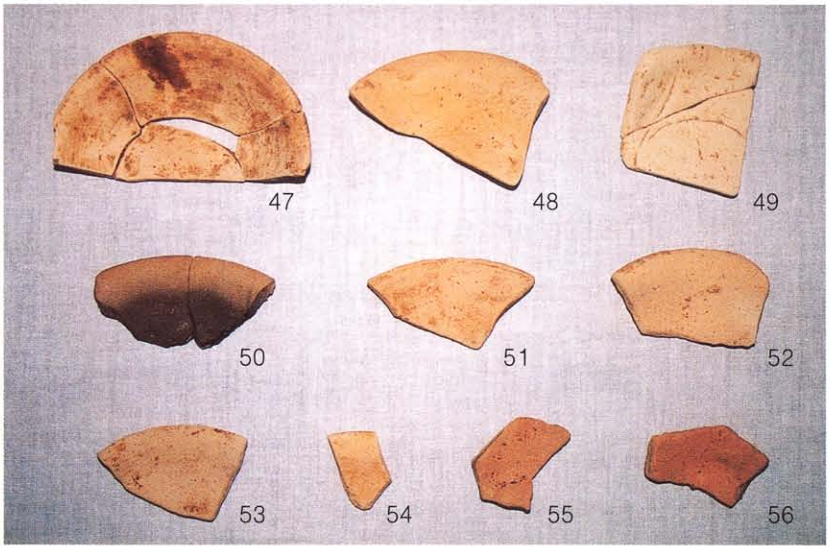
44

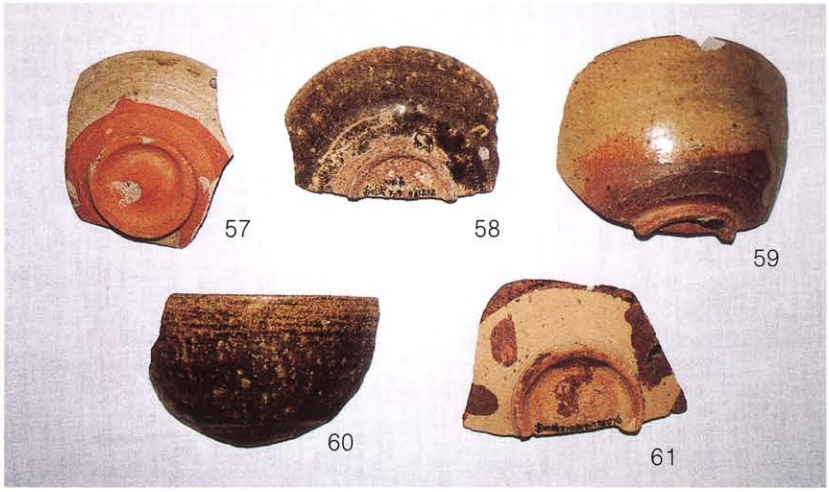
45

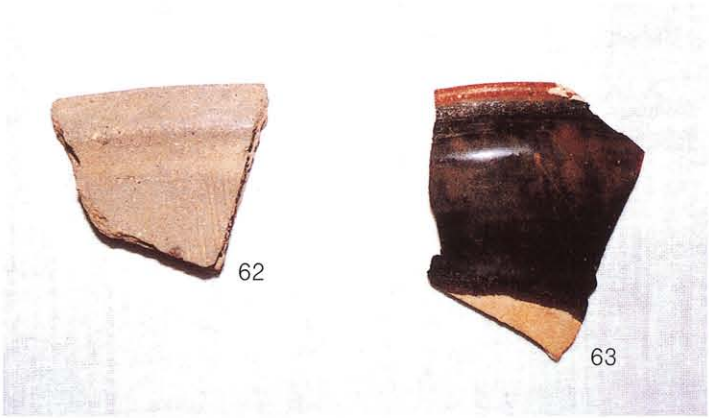
46

三ノ丸地区　第14トレンチ出土遺物

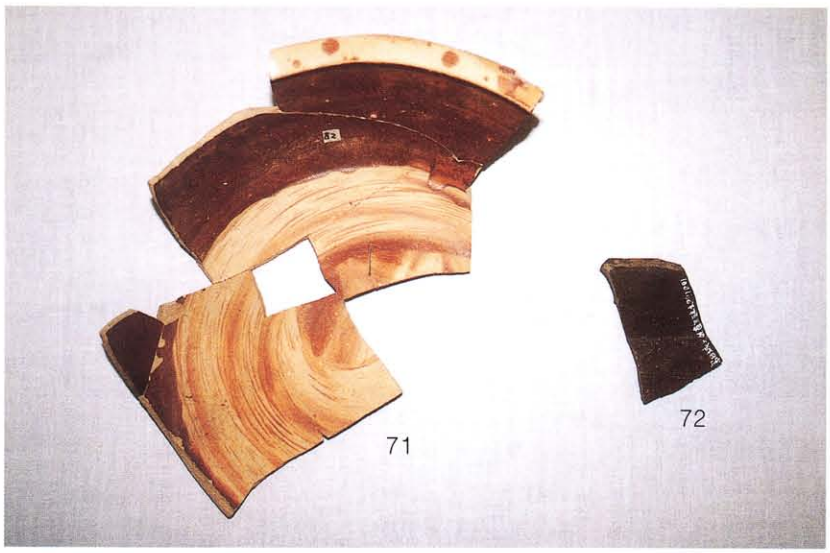
図版28







三ノ丸地区　SB01出土遺物

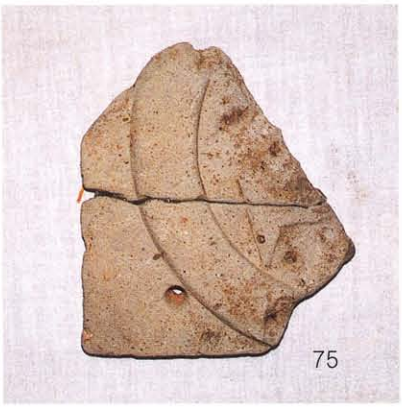


三ノ丸地区　SB01出土遺物

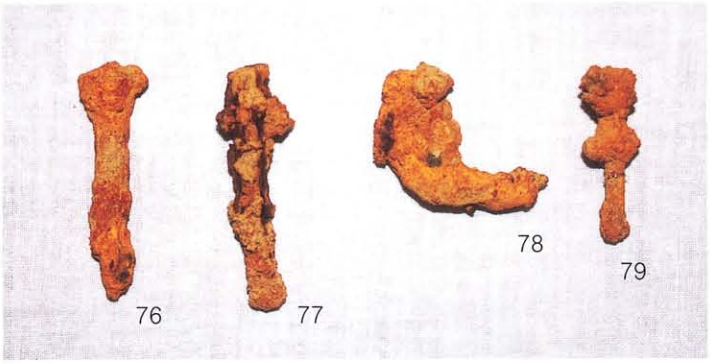
図版30

73

74



75

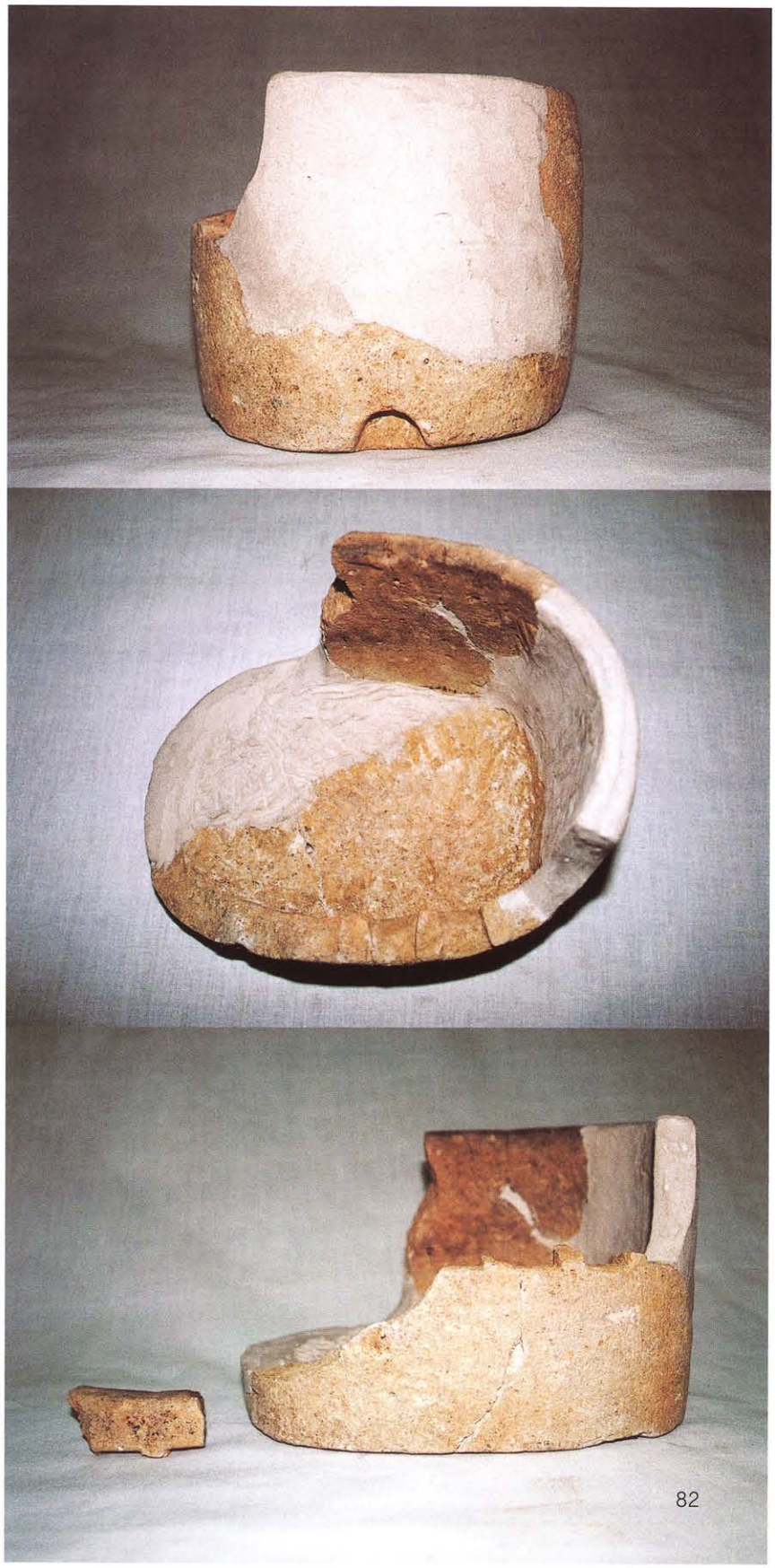


76 77 78 79

80

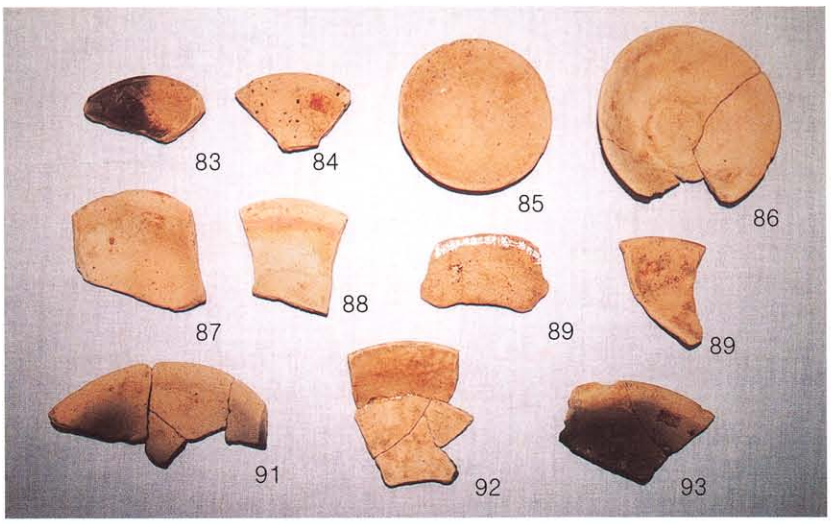
81

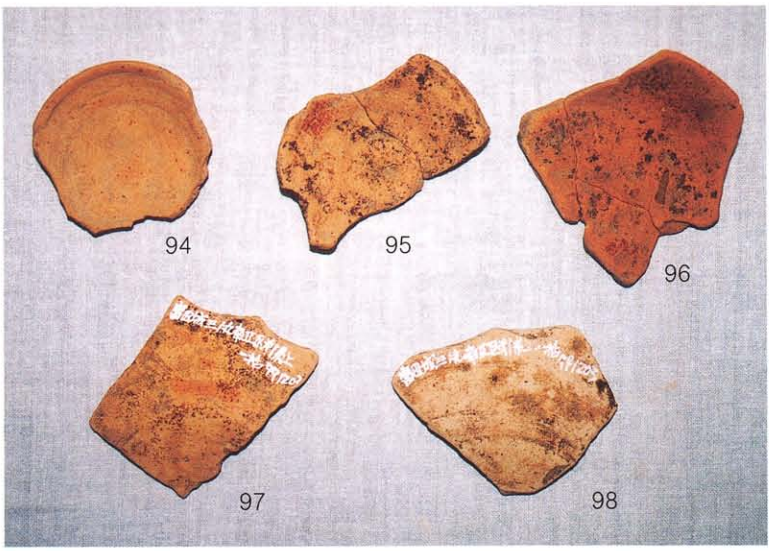
三ノ丸地区　SB01出土遺物



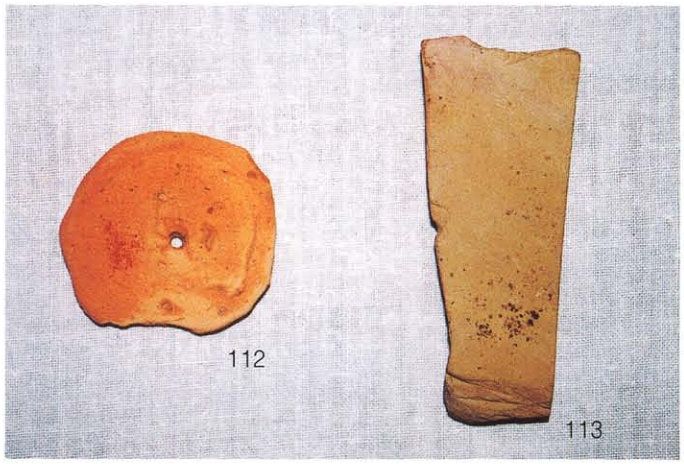
三ノ丸地区　SB01出土遺物

図版32



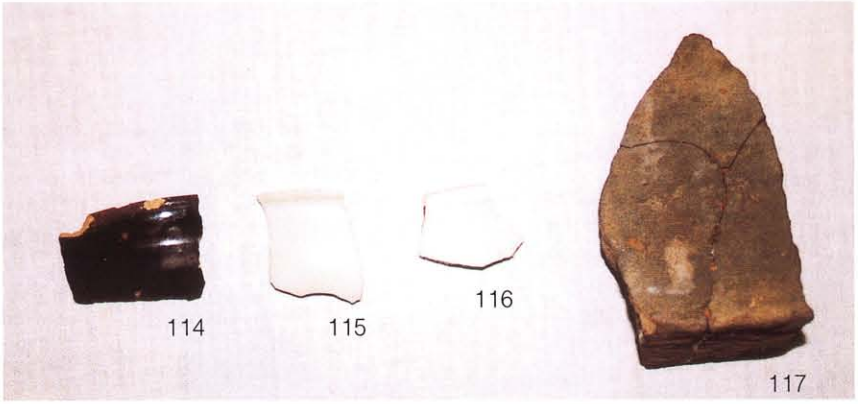


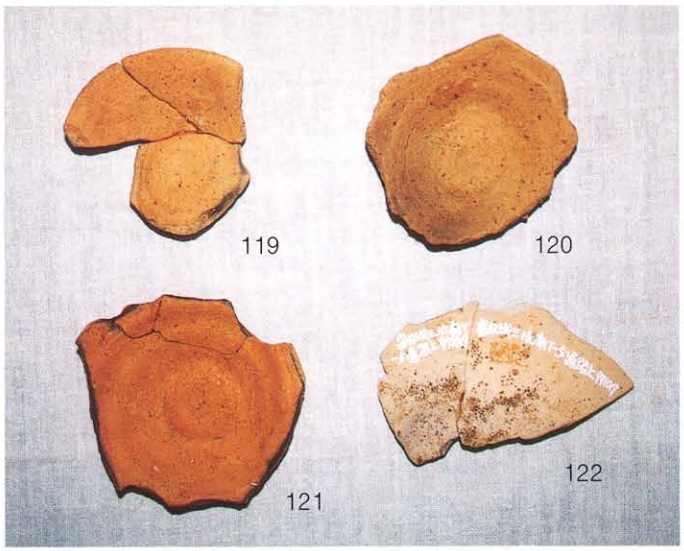
三ノ丸地区　帯曲輪出土遺物

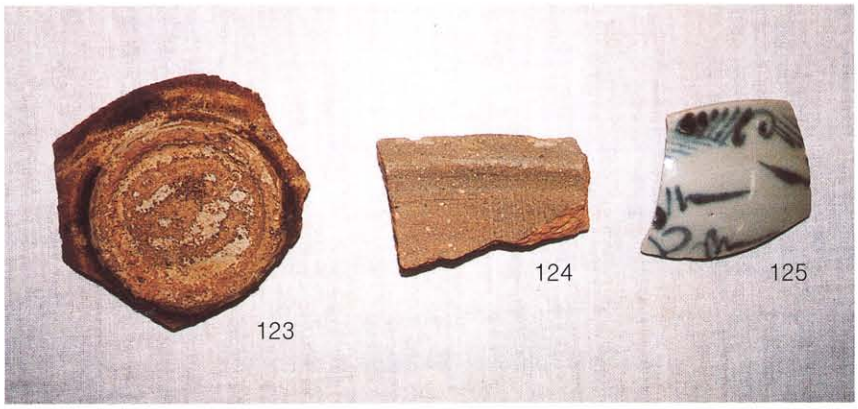


三ノ丸地区　帯曲輪出土遺物

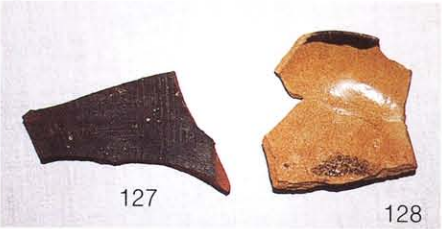
図版34

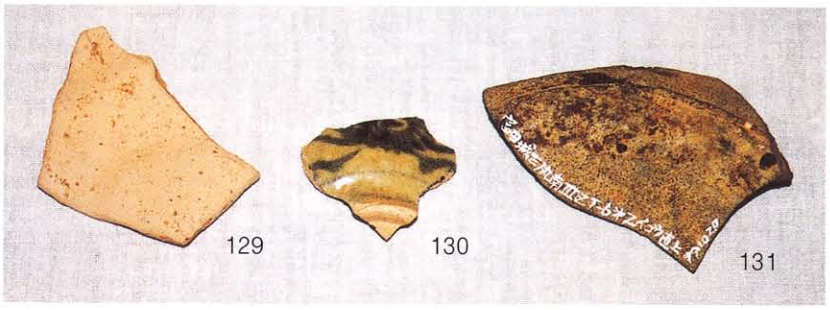


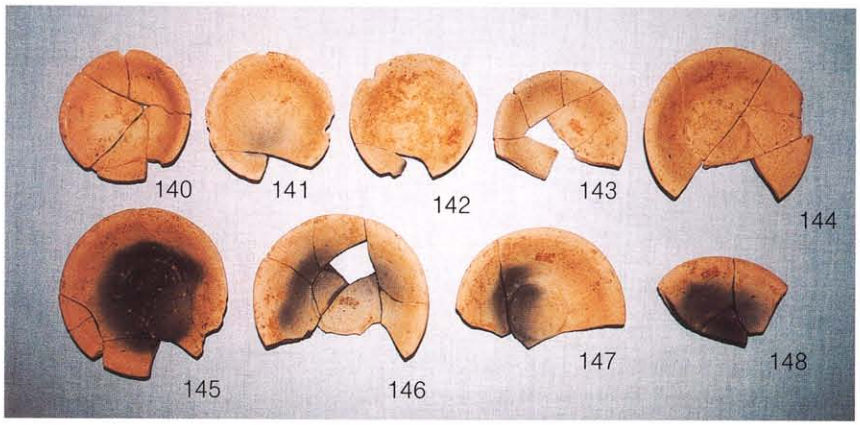




三ノ丸地区　帯曲輪石垣前面出土遺物

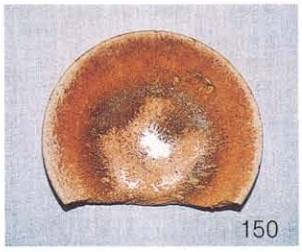


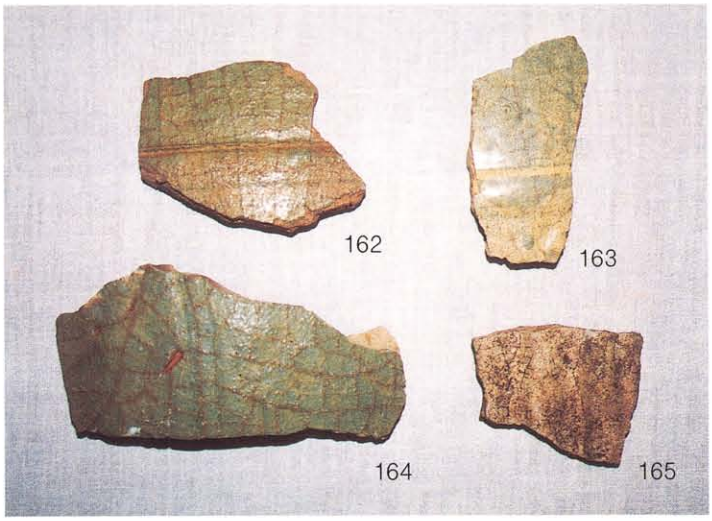


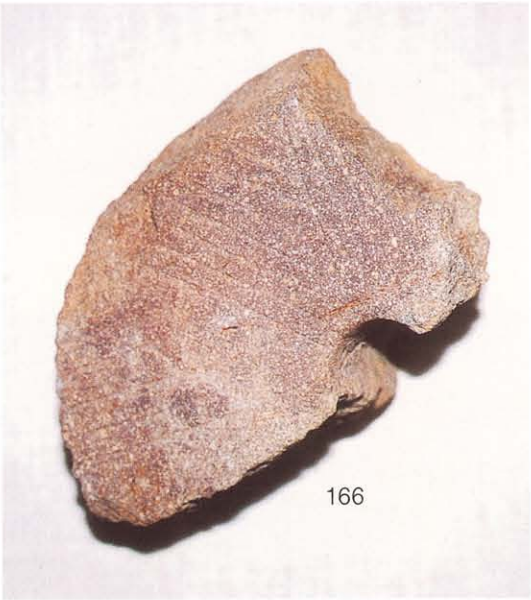


三ノ丸地区　帯曲輪石垣前面（126～128）、帯曲輪第２遺構面（129～139）
第13トレンチ（140～149）出土遺物

図版36







三ノ丸地区　南斜面一括出土遺物

168

169

170

171

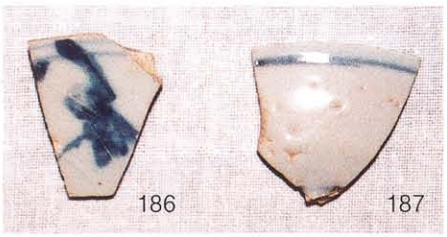
172

173

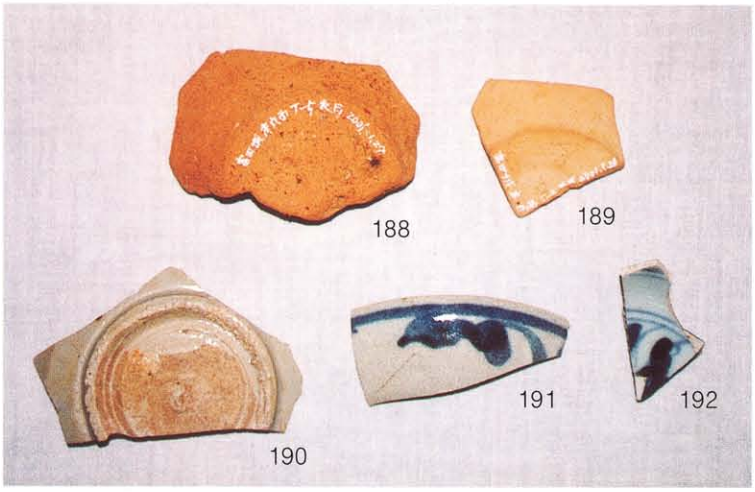
174

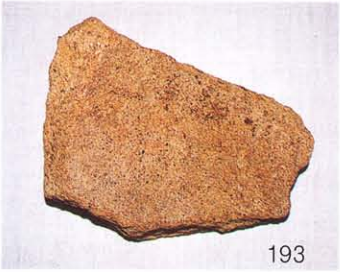
三ノ丸地区　南斜面一括出土遺物

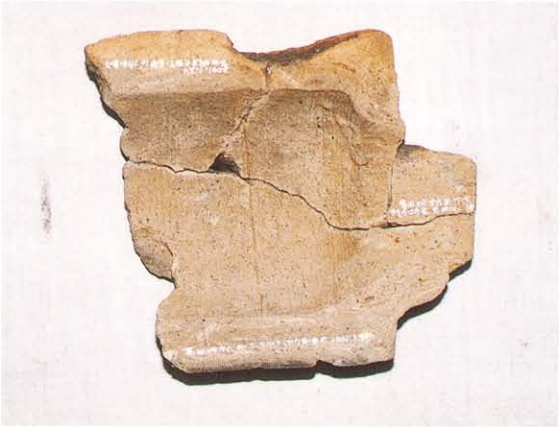
図版38



本丸地区出土遺物







197

198

本丸地区出土遺物

図版40

本丸地区出土遺物

第Ⅵ章　環境整備事業方針と範囲

第１節　整備方針と目的

広瀬町では史跡富田城跡の保存と活用を目的とした整備を実現するため、平成２年度にその基本となる整備基本計画を策定し、中世城郭の特徴を活かした整備計画案の検討を行なった。計画の策定にあたっては「史跡富田城跡総合整備委員会」を組織し、検討及び協議を行い、また文化庁記念物課、島枚県文化財課の指導・助言を受けた。

この「史跡富田城跡整備基本計画」をもとに環境整備事業着手に向け、文化庁及び島根県と協議、検討を行い、平成３～４年度に「史跡富田城保存修理事業」として発掘調査等を実施し、平成５～８年度に調査結果を踏まえ、文化庁と島根県補助による「史跡等活用特別整備事業（ふるさと歴史の広場)」を実施した。この事業（短期整備事業）着手における整備方針と整備テーマを以下に示す。

■整 備 方 針

１）遺跡遺構の保存方針

流土・流失による遺構の破損を防ぐため、早期に史跡保存のための関連計画を立案した。破損している遺構の保存及び修復を目的とした保存修理計画、史跡指定地拡大や公有化の推進による現状変更への対応、また史跡の広報活動を積極的に行い、住民の理解を得ることにより将来的な遺構の保存につながるような施設の早急な計画・立案が望まれた。

２）発掘調査の早期着手

主要な曲輪内や虎口箇所の表土下には、いまだ往時の良好な遺構が広く分布し、建物跡や門跡、通路等の痕跡をとどめているものと推測される。したがって遺構確認のための発掘調査に着手し、整備目的や計画に基づいた遺構検出を図る。

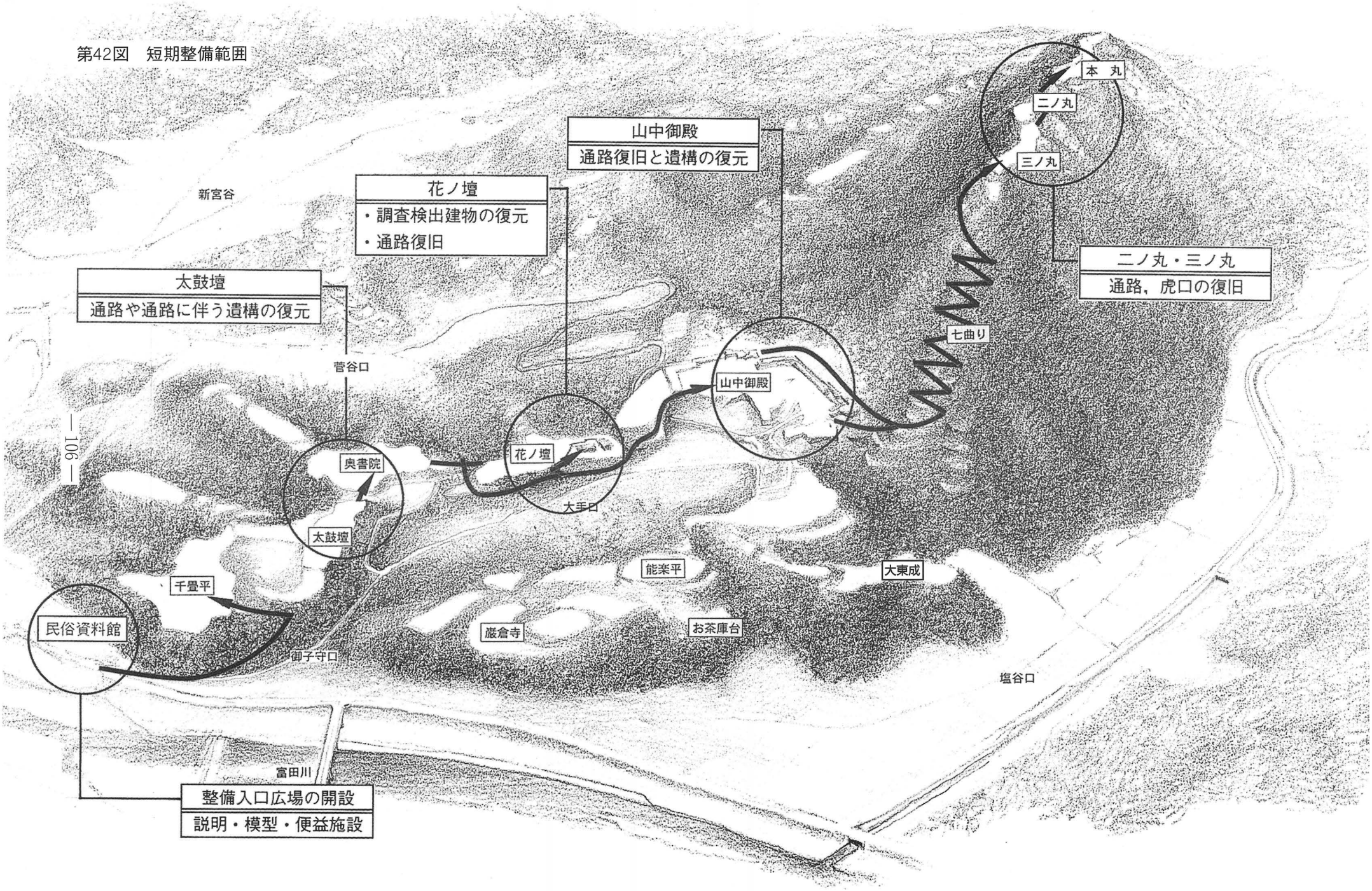
３）分かり易い遺構整備

富田城跡の特徴である尾根上に連続して連なる曲輪の形態やそれを区画、縦続する堀切や虎口等を整備することにより、視覚的な城跡の再現を図ることを整備方針とした。曲輪は堀切等法面を整形することで輪郭を明らかにする。さらに虎口跡、門建物や堀、土塁等を復元し、より立体的な整備内容とする。将来的には代表的な曲輪跡の全面発掘を行い、当時曲輪内で営まれた生活やそれに関する建物、施設遺構を展示し、修景及び景観整備として既存樹種の整備や通路跡の復旧等が主要な項目として挙げられる。

４）公開施設の充実

史跡公開にあたって公開施設として、全体遺構及びその歴史についての総合案内施設の設置、各主要な遺構の説明板や位置や道順を示す指導標の設置等、全体的な計画に基づいた設置が望まれる。往時の通路跡を園路として活用した城山全域でのルートの設置とそれに伴う入口広場や休憩広場の開設や休憩施設やトイレ等便益施設の適当な配置が望まれる。

第42図　短期整備範囲


山中御殿
通路復旧と遺構の復元
花ノ壇
・調査検出建物の復元
・通路復旧
太鼓壇
通路や通路に伴う遺構の復元
二ノ丸・三ノ丸
通路，虎口の復旧
整備入口広場の開設
説明・模型・便益施設
本　丸
二ノ丸
三ノ丸
七曲り
山中御殿
新宮谷
菅谷口
奥書院
花ノ壇
大手口
太鼓壇
千畳平
民俗資料館
御子守口
能楽平
巌倉寺
お茶庫台
大東成
塩谷口
富田川

5）事業方針

上記の整備を行う上での将来的な事業内容の検討と、事業計画の早期立案が必要とされた。整備順序の問題、優先順位、調査と遺構整備の手順等、公有地化から公開まで一体となった事業計画を立案することが望まれた。

■整備テーマ

短期整備計画範囲で示した千畳平、太鼓壇、花ノ壇、山中御殿平、三ノ丸、二ノ丸、本丸跡は富田城跡内で最も特徴のある遺構群であり、当時も主要な動線となる曲輪群である。現在、史跡内で公開されて親しまれている範囲であり、遺構的にも良好にその痕跡を残している。

今整備計画では、民俗資料館から本丸までの線的な早期公開を目標とする。そこで景観、案内施設等を整備し、公開のための短期的な整備内容とする。

◎通路形態の復旧

残存遺構から見られるように、堀切を渡る橋や腰曲輪を通路とした動線の整備により曲輪を渡る通路を復旧し、あわせて通路につながる門跡や虎口を整備することにより往時の特徴的な通路形態の復旧を図る。代表的に整備する門、虎口跡として山中御殿平跡、大手門跡、二ノ丸、本丸跡が挙げられる。

◎景観整備

既存樹木の整備対象としては、三ノ丸、二ノ丸、本丸跡周辺に密生する樹木、花ノ壇周辺の立木・下草等が間伐整理の対象となる。また視覚的な効果を高めるため千畳平や山中御殿平跡の石垣の上に建つ塀の復元展示、その他主要な曲輪群の範囲の明確化と安全管理、また低木植栽等修景の意図も含めた整備内容が検討される。千畳平や山中御殿平跡の石垣上に残る矢倉跡を利用した展示施設、当時の建物構造に則した建物の設置を図る。

◎公開施設の充実

説明案内板は耐久性、耐色性に優れた磁器板に焼き付け着色したものを使用し、各所に配置する、便益施設として新たにトイレ、ベンチ、水飲み場等を設ける。

◎民俗資料館

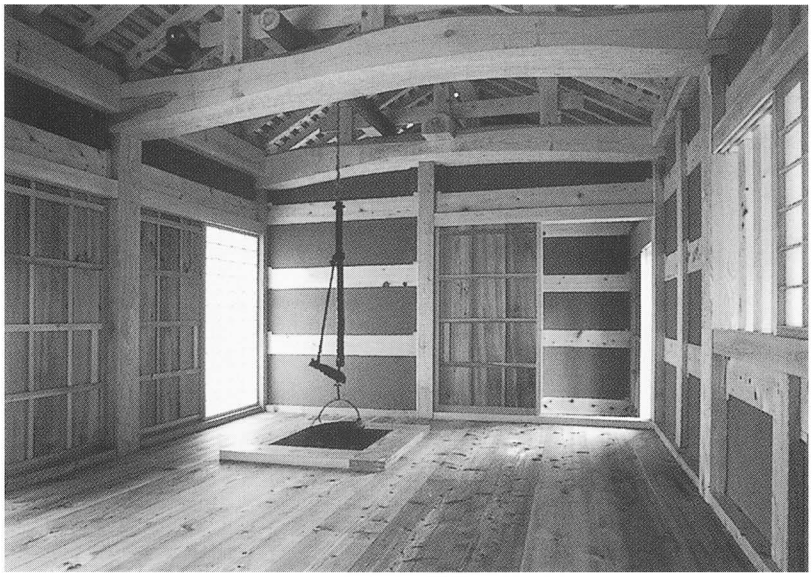
短期整備計画範囲では、富田城跡との関連を強め、調査機能の充実、富田城跡出土品の展示施設の拡充を図る。また資料館前庭等を城跡入口広場として活用し、総合案内施設の設置や屋外模型等を展示する。

以上、短期整備範囲での目標を示した。事業計画についてこれらの整備テーマを基本として分かり易い遺跡の公開を目指す。

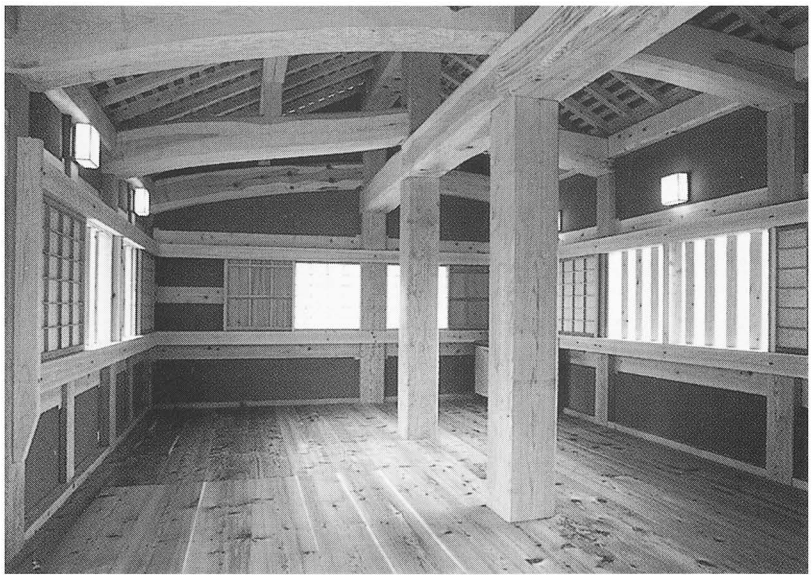
縄張全体模型／入口広場

花ノ壇全景

花ノ壇／建物



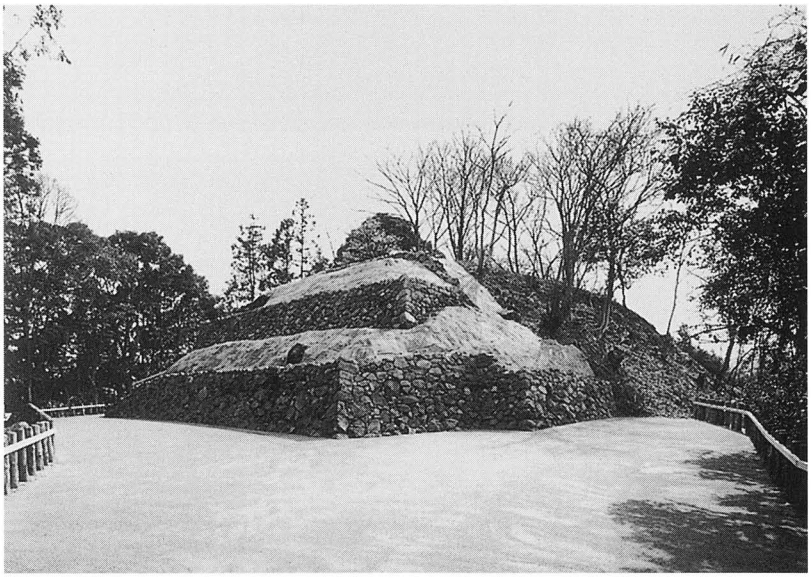
建物内観／主屋



建物内観／侍所

遺構露出展示／花ノ壇
下通路

山中御殿相坂階段



三ノ丸下帯曲輪（山頂部）

二ノ丸虎口跡（山頂部）

第２節　平成９～14年度環境整備工事範囲

今報告書では前記した「史跡富田城跡総合整備計画」の基本方針に基づき、平成５～８年度の史跡等活用特別事業（以下ふる歴事業とする）に引き続き実施した環境整備工事について示す。

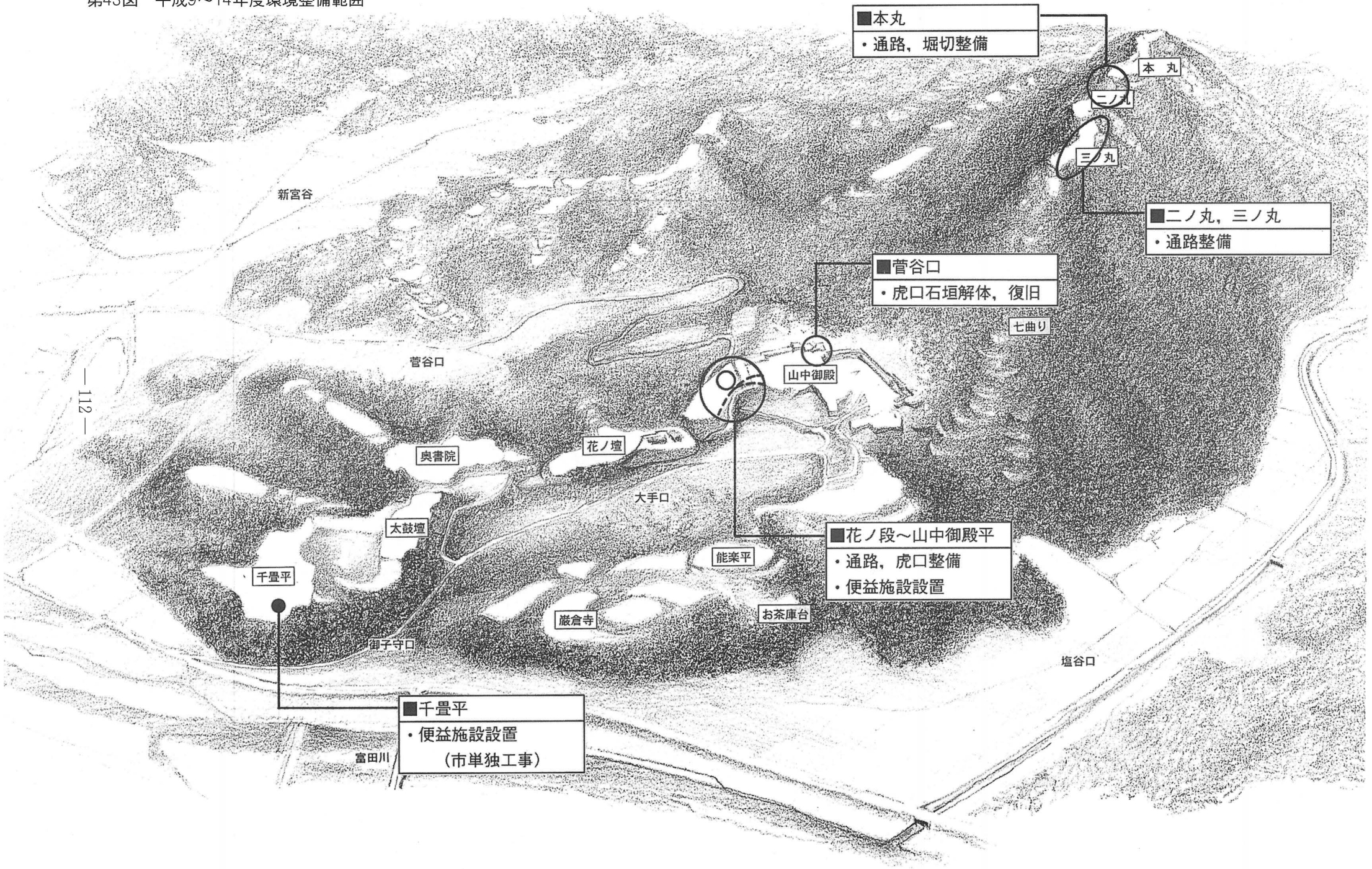
短期整備範囲内で「ふる歴」事業期間中に実施することができなかった整備を今環境整備工事項目として設定した。第一に平成８年度に整備完了した三ノ丸虎口跡整備と二ノ丸虎口跡整備によりそれらの導入口間を結ぶ通路（武者走）があることが想定された。三ノ丸、二ノ丸両虎口の位置関係から三ノ丸南側に通路が想定でき、その間の発掘調査（第Ⅲ章第１節参照）を実施した。またあわせて二ノ丸虎口跡から本丸までの導入形態が不明であったため、二ノ丸、本丸間の堀切跡周辺の発掘調査（第Ⅲ章第２節参照）も実施した。第二に花ノ壇跡と山中御殿平跡を結ぶ通路及び曲輪が、近年の町道建設によって分断されていたため、その復旧が求められていた。そこで「ふる歴」事業期間内に町単独工事として分断された町道部にボックスカルバートの設置を実施したため、その部分の通路及び曲輪の復旧工事を実施した。その分断された区間の遺構は破損していたが、その周辺を発掘調査（別冊発掘調査報告書（平成14年３月刊行）参照）したところ山中御殿平跡北側（花ノ壇跡に隣接する部分）に虎口を検出し、その通路整備に向けた調査内容の検討を行なった。また基本計画策定の公開施設計画に基づき、山中御殿平跡、花ノ壇跡周辺に１箇所便益施設の設置を計画した。

以上「ふる歴」事業と同様、通路形態の復旧を主体とし、公開上必要な利便施設の設置を含めた整備として事業を推進した。

表11　事業工程

工事箇所＼年次	平成９年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
山　頂　部 （本丸～三ノ丸）			二ノ丸～三ノ丸 通路整備	本　丸 堀切整備		仮設撤去
山頂御殿平 ～ 花　ノ　壇	通路、虎口整備				花ノ壇 便益施設 菅谷口 石垣復旧	
そ　の　他					千畳平 便益施設	案内板設置

第43図　平成9～14年度環境整備範囲



第Ⅶ章　環境整備工事

第１節　三ノ丸地区

三ノ丸地区は図44に示すように西ノ袖平跡から二ノ丸虎口の間に想定できる三ノ丸南側斜面の通路を整備する目的でトレンチ調査を実施した。この斜面に対して垂直に設定したトレンチ（第１～第12トレンチ）の内で、第４～12トレンチの間において斜面の押さえを確保するために築造されたと考えられる石垣の痕跡が確認できた。この石垣は二ノ丸虎口につながるような形で検出された。しかし第１～14トレンチの間では明確な石垣は検出されていない。また第４、第５トレンチのさらに上部（北側）で斜面中腹に設けられた平坦部に礎石建物跡の検出も確認できた。これらの調査結果を詳細に検討した結果、図45に示すような通路（平坦面）跡が推定できた。この結果から通路を細かく４つ（通路Ａ～Ｄ）に分類する。

①通路（Ａ）

現三ノ丸虎口下部に広がる西ノ袖平とほぼ同レベルで始まり、三ノ丸南側斜面を通り序々にレベルが上がり二ノ丸虎口へ至る通路となる。

②通路（Ｂ）

三ノ丸南側斜面中腹に位置し、脇に石垣を有する通路跡である。しかし通路が確認できたのは石垣の痕跡が確認できる範囲にのみであり、途中で途切れるような平坦面である。

③通路（Ｃ）

二ノ丸虎口と検出された斜面部礎石建物跡の礎石面へとつながる通路である。

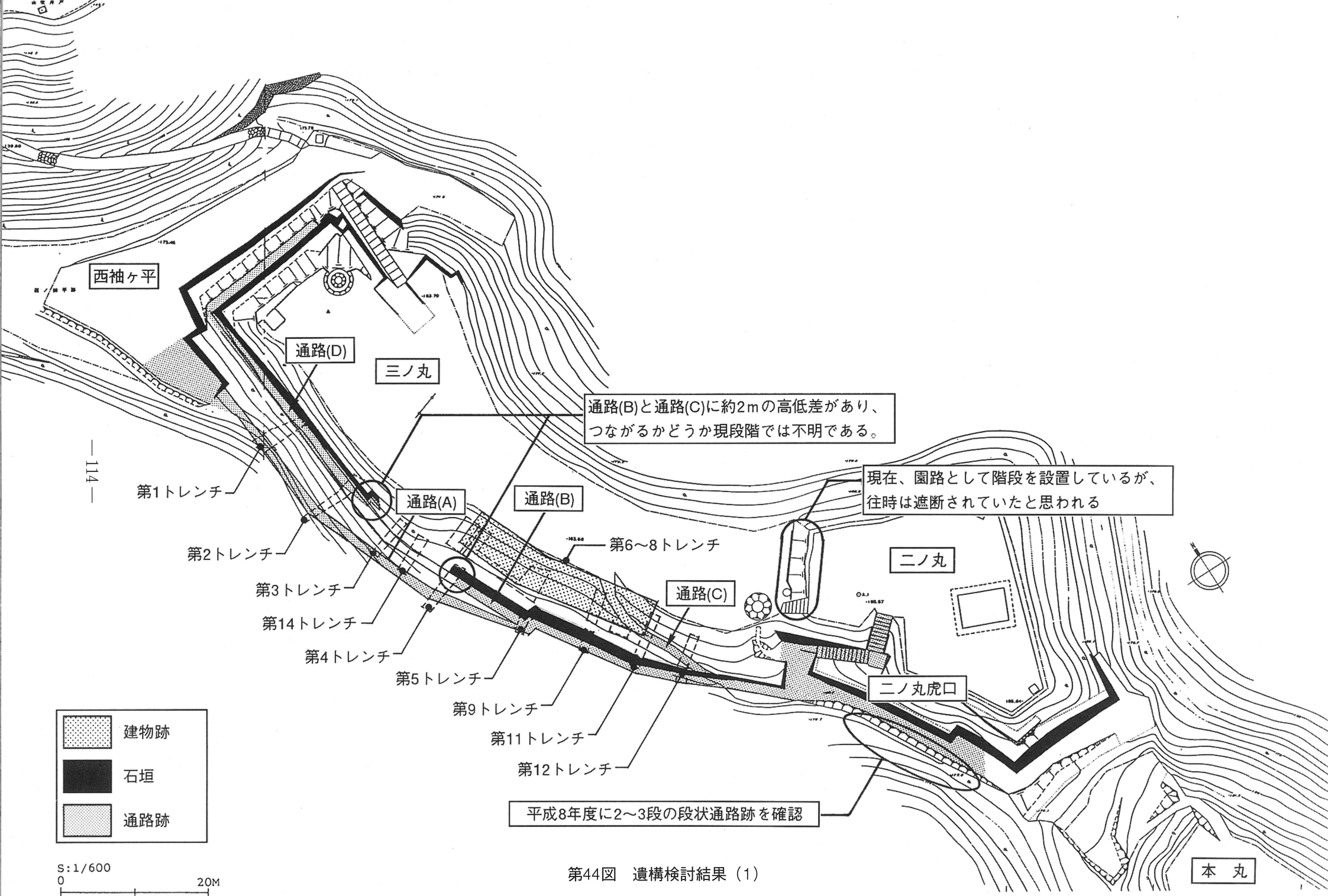
④通路（Ｄ）

三ノ丸北西部段状石垣の中腹から南側斜面中腹へとつながる通路であるが、これも途中から平坦面が消失しており、不可解な部分がある。

⑤礎石建物跡

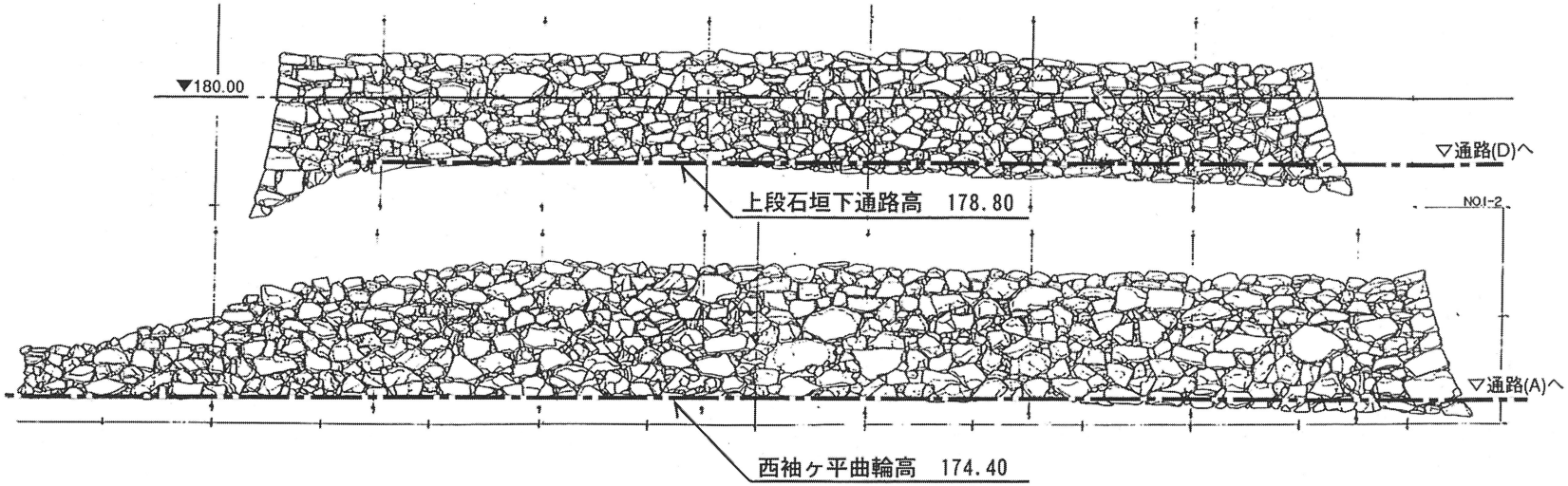
礎石は第６、第７、第８トレンチにおいて途中で礎石痕跡が屈曲していること確認され、一連の建物が時期の異なる二棟の建物かどうかには検討を要する。また明確な礎石が斜面谷側に集中していることから床面を三ノ丸曲輪面に有する懸造りの床組構造とする可能性もある。

これらの検討を踏まえ、「史跡富田城跡総合整備委員会」に諮り、検討を行なった結果、「通路（Ａ）については往時の通路跡としての可能性は高いが、通路（Ｂ）及び（Ｄ）については石垣を築造する際の足場としての平坦部という可能性もあり、一概に通路と断定するには疑問がある。」との指摘があった。また「通路（Ｃ）及び礎石建物跡については三ノ丸曲輪面のさらなる調査が必要であり、床組構造等を明確にしてから通路（Ｃ）との

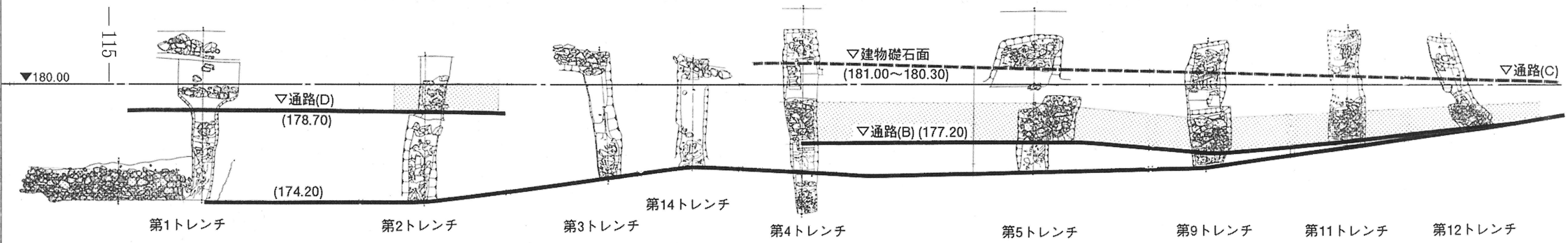


第44図　遺構検討結果（1）

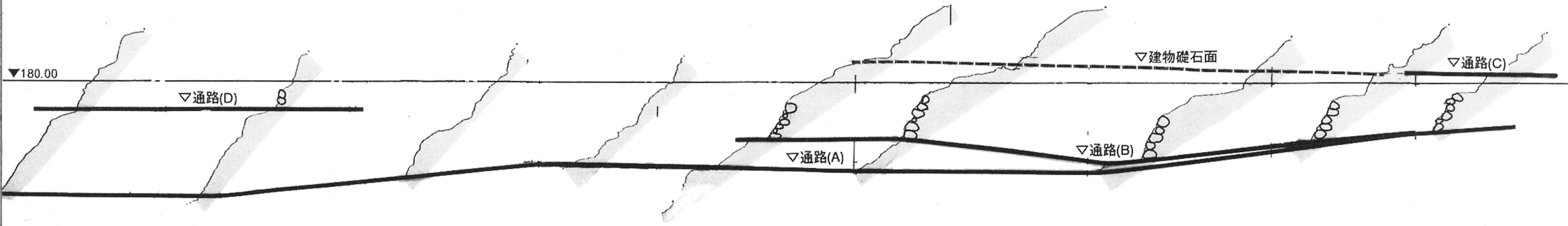
第45図　遺構検討結果（2）



[立面 S=1/200]



[断面 S=1/200]



関係を検討すべき。」との指摘もあった。

以上の検討結果から下記の整備方針を抽出した。

①通路（A）の復元
②現在確認している建物礎石の保護盛土
③礎石建物とほぼ同範囲に確認している石垣の表示

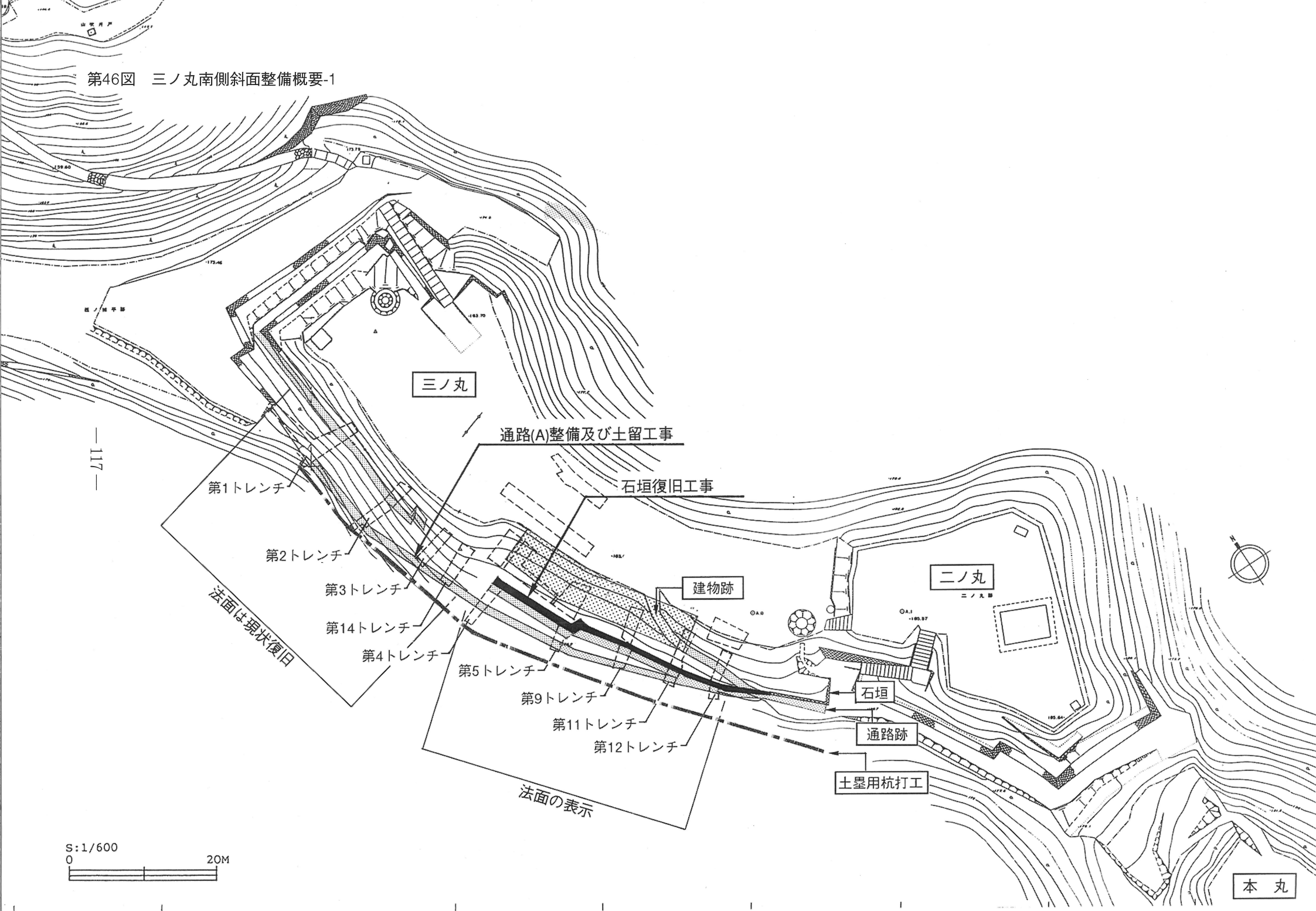
①については富田城跡の山頂部（本丸～三ノ丸）の複雑な通路形態を一般来訪者に分かり易く公開するために整備を実施する。整備方法としては造成面に保護盛土を施し、土質系舗装とする。また急な斜面であるためステンレス製の転落防護柵を設ける。

②については懸造りの床組を有する建物の可能性があり、立地上城跡の南側を監視する建物として山頂部の重要な位置付けであったと考えられる。しかし往時の床組が懸造りであったかどうか、また建物の平面形態等を明らかにするには三ノ丸曲輪面のさらなる発掘調査が必要であるため今工事では保護盛土を施し、養生することとする。

③については礎石が検出された平坦面を保護するような石垣であることから築造の意味、良好な状態の富田城の石垣を公開する目的で石垣の表示を実施する。しかし石垣の天端が崩落により消失しており現状のままの表示は困難であるため、礎石平坦面が崩落しない程度の最低限の石垣補修を実施する。石垣天端は礎石面付近まであったと考えられるが、今回の整備ではそこまで復元せず、50㎝～80㎝程度の石積工事にとどめる。また補修天端は不揃いな状態で整備する。確認した範囲が第４～第12トレンチであるためその間の堆積土は除去するが明確な遺構が確認できない第１～第３トレンチに関しては土のう積みによるトレンチの埋戻しとする。

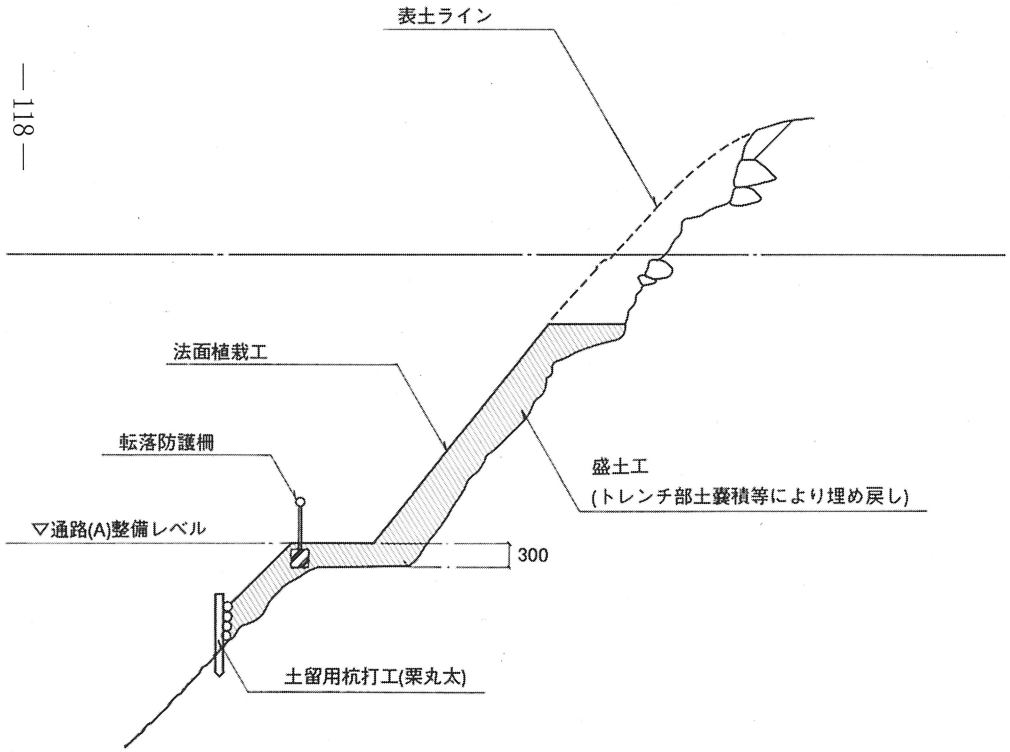
以上の整備方針で設計及び工事実施したものである。（図46～48）

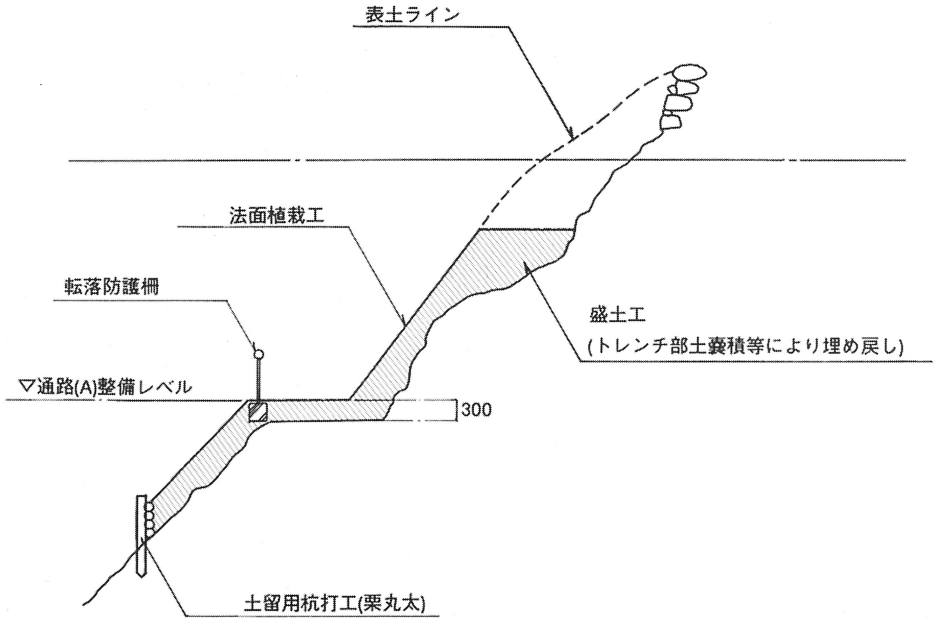
第46図　三ノ丸南側斜面整備概要-1



第47図　三ノ丸南側斜面整備概要-2

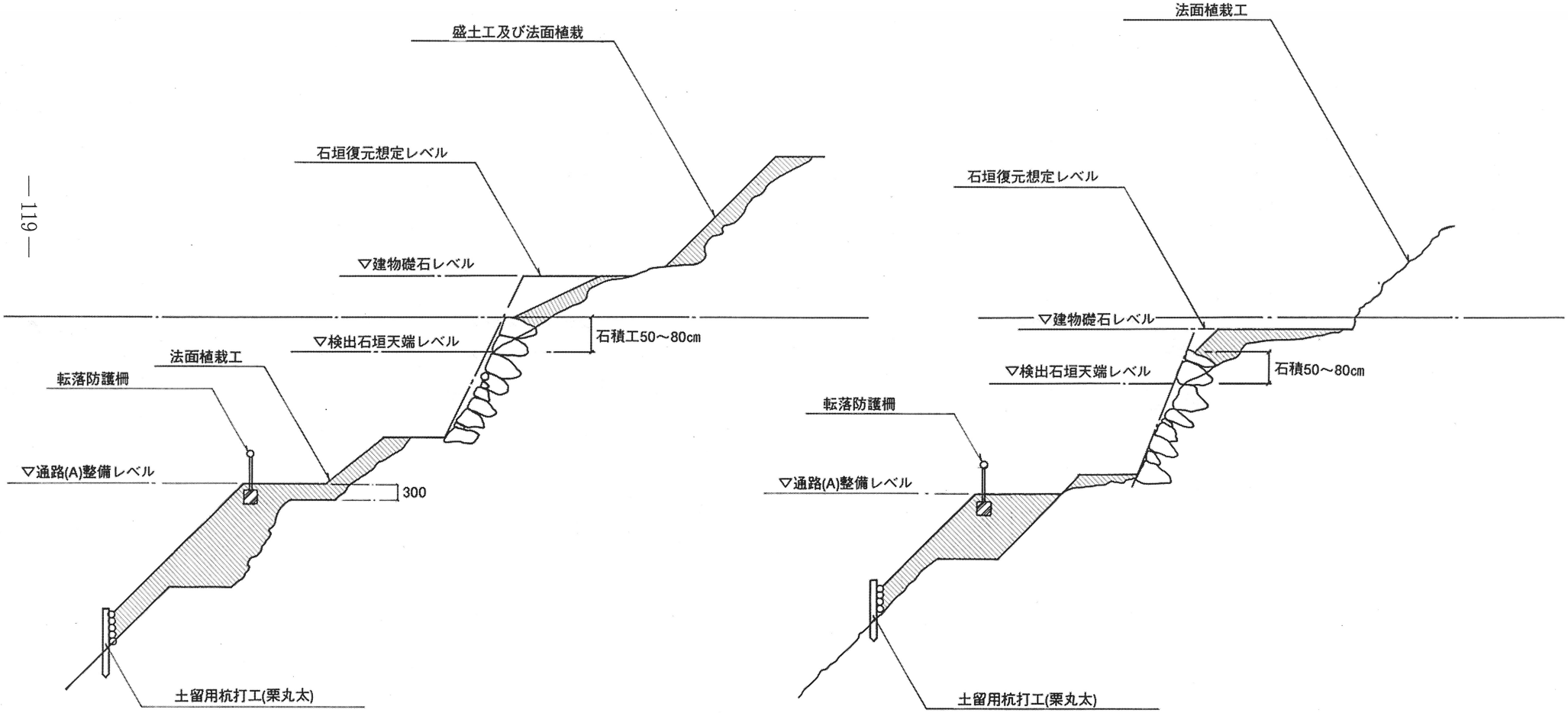
第1～4トレンチ範囲

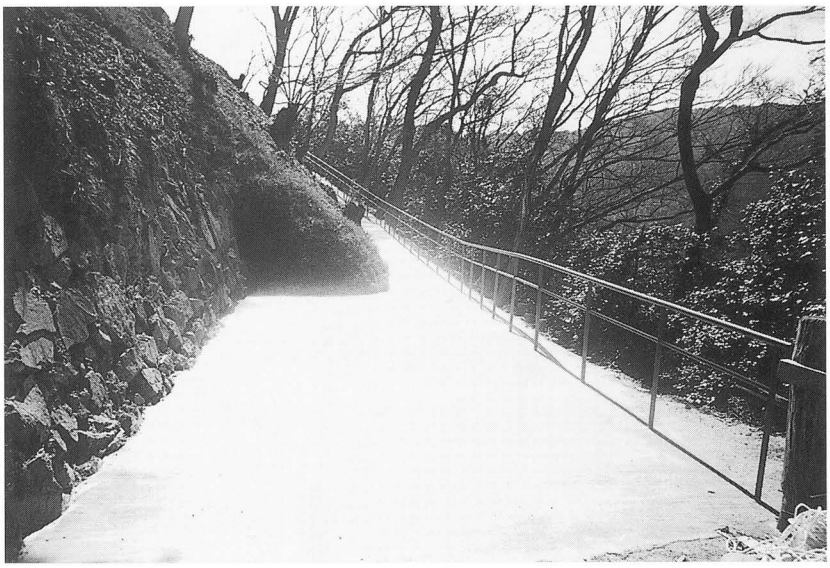




第48図　三ノ丸南側斜面整備概要-3

第5～9トレンチ範囲





三ノ丸地区園路整備状況
（北側）

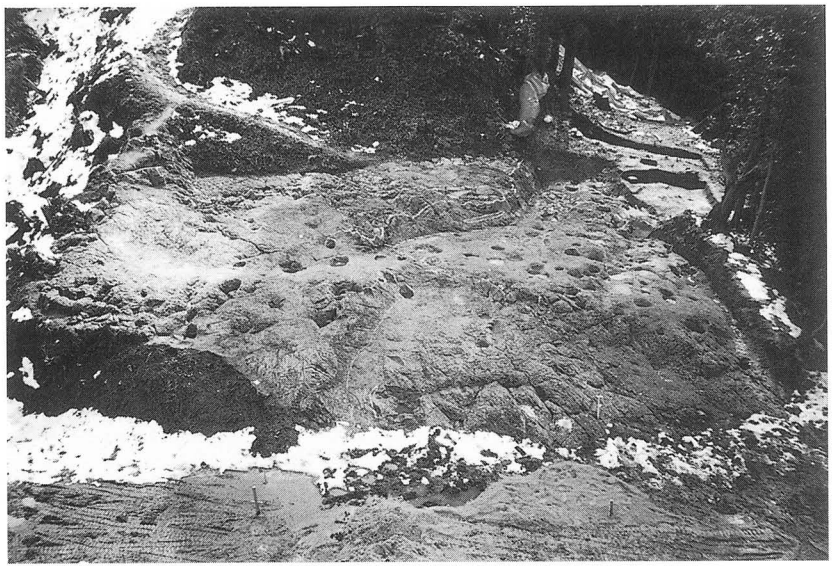
三ノ丸地区園路整備状況
（帯曲輪石垣付近）

帯曲輪石垣整備状況

第2節　本 丸 地 区

前節の三ノ丸地区における通路跡の検討の結果から、図49に示すような通路形態となることが確認できた。したがって七曲りより三ノ丸虎口下に到着すると、3方向に道が分かれ、1方向は三ノ丸へ、2方目は三ノ丸北側斜面へ、3方目は西ノ袖平を経由し、前記した三ノ丸南側斜面の通路を通り、二ノ丸虎口へと導入する。また二ノ丸虎口はさらに東側（本丸方向）へと延びており、本丸への導入形態は次の課題となった。

第Ⅲ章第2節で報告した発掘調査結果から二ノ丸～本丸間の岩盤を加工した堀切より直接本丸へと導入するルート（通路（イ））が明確となった。しかし図に示すように本丸のほぼ中間部南側に現存する土塁で囲まれた虎口跡があることから、二ノ丸同様本丸も何らかの形で南側斜面から導入する形態があったと考えられる。そのため通路（ロ）を確認すべくトレンチによる確認調査を行い、2期にわたる遺構面が確認できた。しかし通路（ロ）については、本丸虎口までの間で一部法面が急峻で危険性が高いため、整備検討はもちろん、発掘調査も不可能な範囲があり、今回は調査、整備対象範囲から除くこととなった。よって今環境整備事業では通路（イ）のみの整備工事の実施とし、堀切部が風化しやすい段状の岩盤であるため露出することが困難と判断し、保護盛土による整備工事を実施した。ただし、通路ルートに関しては三ノ丸～二ノ丸同様土質系舗装を施すこととした。保護盛土の地被は雨水による侵食防止のため、張芝とした。

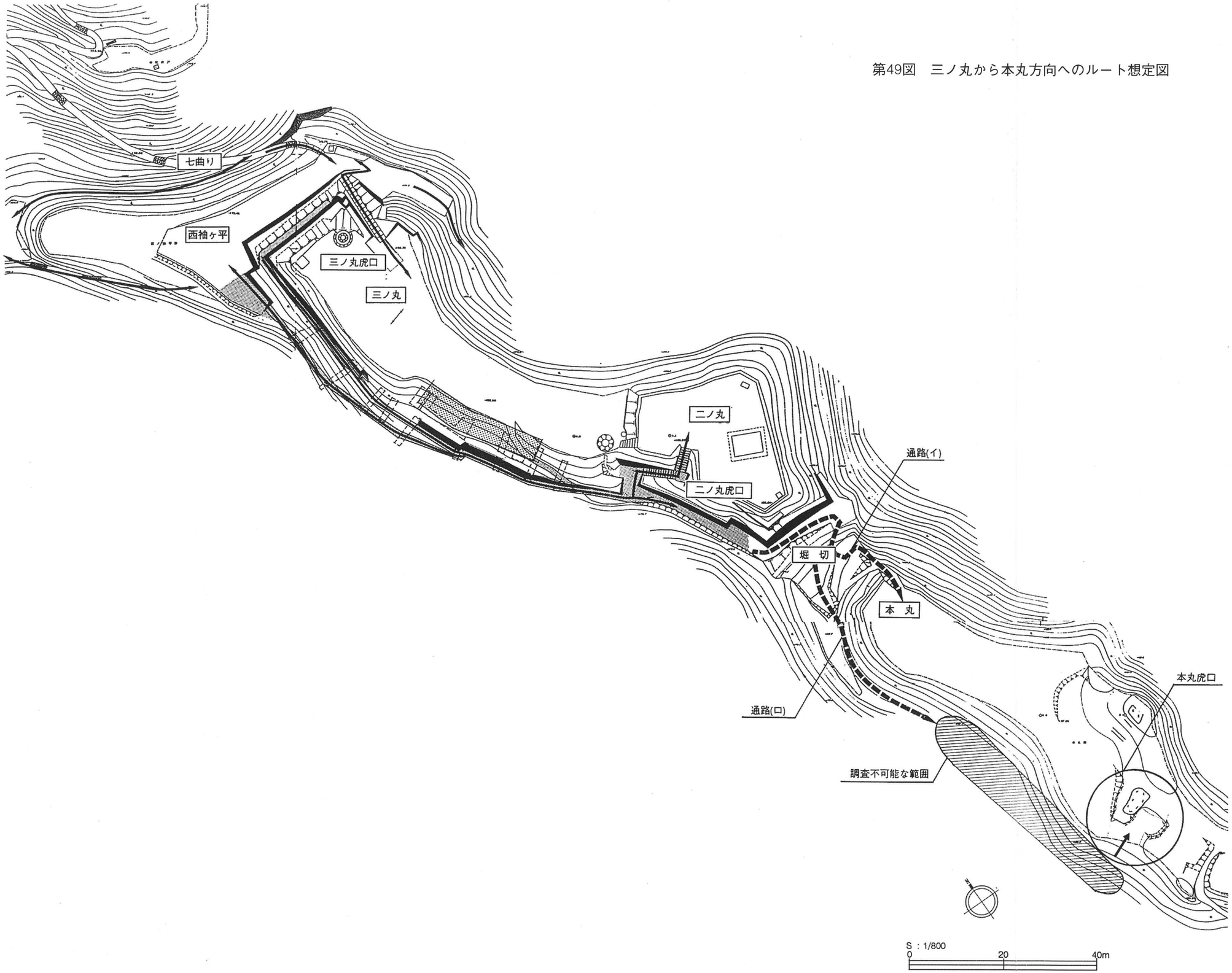


本丸地区整備前状況

保護盛土工完了後

整備完了後

第49図　三ノ丸から本丸方向へのルート想定図



第３節　山中御殿平・花ノ壇地区

今環境整備事業におけるこの範囲の課題は、「ふる歴」事業で発掘調査により、花ノ壇跡東側から南側にかけて検出した通路跡が、町道により分断されているもののどのようにして山中御殿平へとつながるかであった。(図50)

ここで分断されている箇所以外の範囲において通路を確認すべく発掘調査を実施し、『別冊：史跡富田城跡発掘調査報告書（山中御殿平・花ノ壇地区)』で示すような虎口跡と通路跡を検出した。(図51)

この結果から通路巾は狭い（帯曲輪跡）ものの、現存土塁石垣の西側を通り山中御殿平へ導入するルートが確認された。しかしこの帯曲輪跡は石垣の下部に埋没しているため、土塁に伴う虎口とは時期が異なると考えられる。虎口に伴う通路跡や斜面の登り口は既に崩落していると思われ、また急な斜面であるため明確な痕跡が確認できない状況であった。また花ノ壇南西部には曲輪導入への石組階段とそれに伴う石垣を検出していたが、現存土塁石垣西端部付近では通路に沿った石垣の高低差役1.8mの検出はなかった。これは花ノ壇曲輪自体に段差があることからも分かるように、土塁石垣北側の花ノ壇曲輪面で通路面との高低差が約60cmとなることにより石垣が高低差にあわせてなくなったものと考えられる。

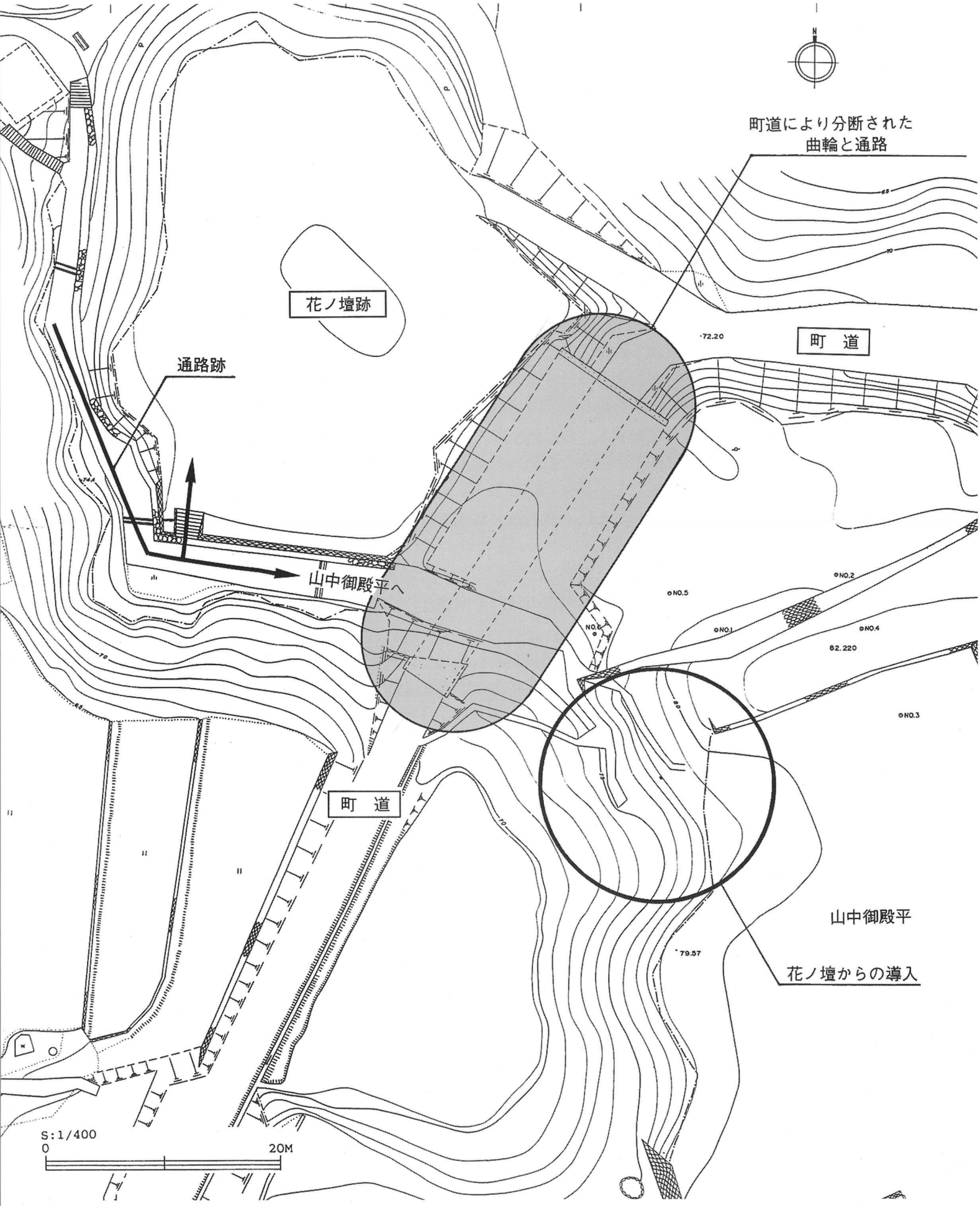
これらの発掘調査結果から整備内容の検討を実施した。

①町道部はボックスカルバート上部に埋戻しを施し、消失した曲輪面の復旧を行う

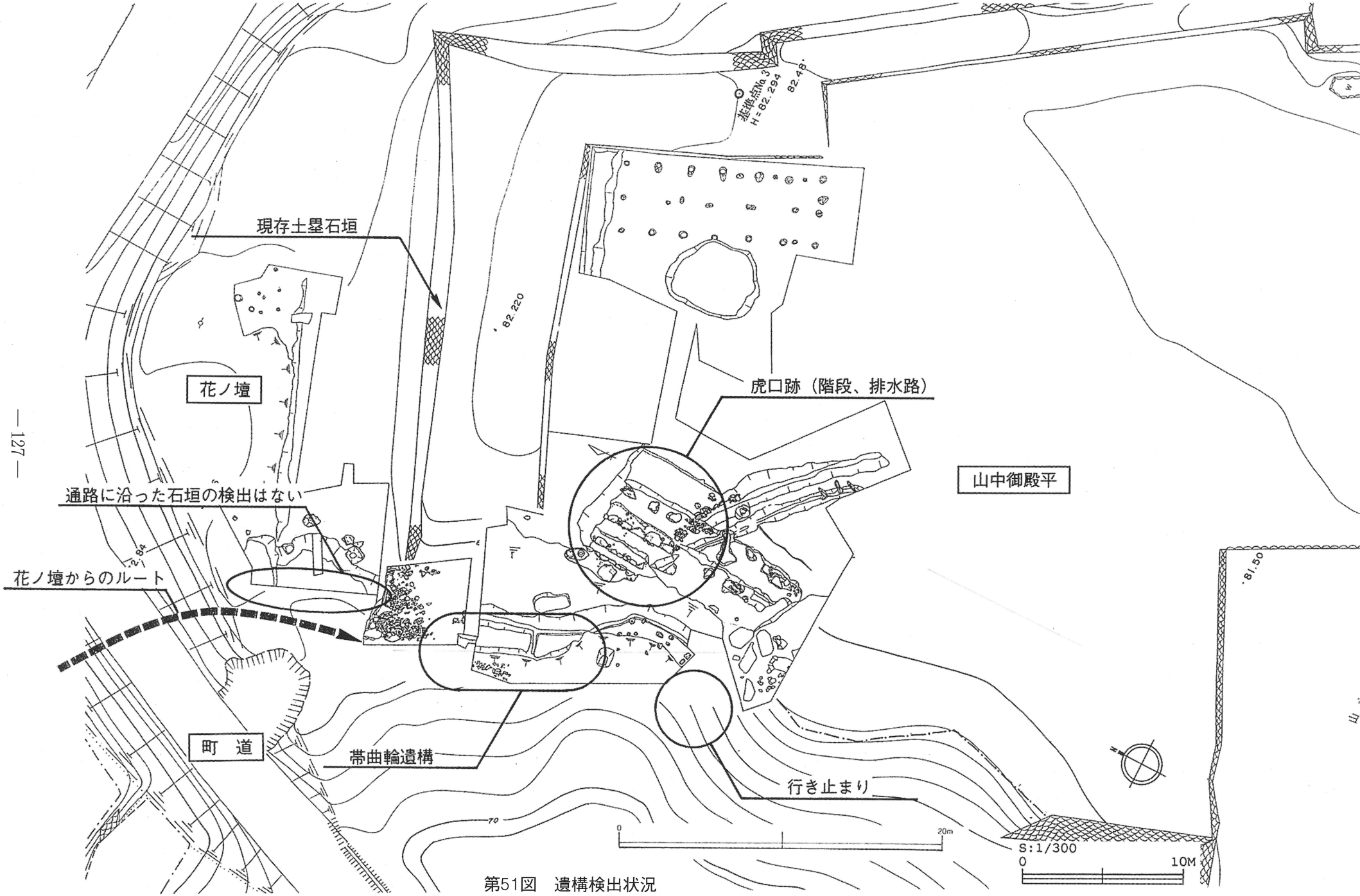
②①と同様花ノ壇南側の分断された通路跡の整備を実施する。通路石垣の復旧については花ノ壇曲輪面の段差にあわせて行う。

③山中御殿平への導入口である帯曲輪と虎口跡に保護盛土を施し、上部に復元を行う。ただし帯曲輪から虎口階段へのアクセス（高低差３ｍ）は明確な遺構の痕跡がなかったため、園路として木製デッキを設置して円滑に歩行できるようにする。また帯曲輪と時期は異なるが良好な状態で虎口（階段）が検出されているため時期の差が生じるという前提で階段の復元を実施する。

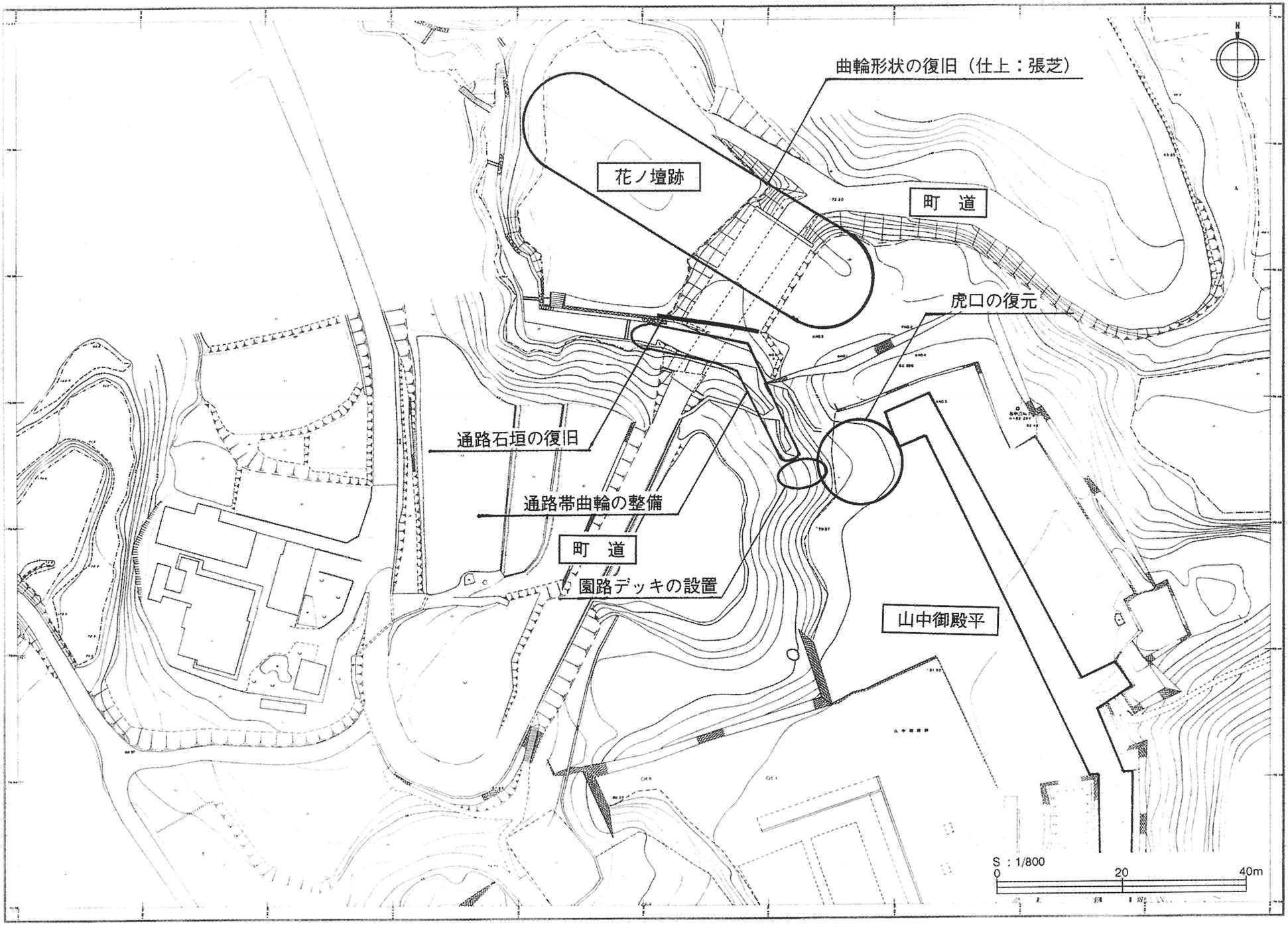
以上の整備方針で文化庁記念物課、島根県文化財課と協議し、基本的に承認を得ることができたため整備に着手した。


町道により分断された
曲輪と通路
花ノ壇跡
通路跡
町　道
山中御殿平へ
町　道
山中御殿平
花ノ壇からの導入
S:1/400
0
20M

第50図　整備予定箇所


現存土塁石垣
花ノ壇
虎口跡（階段、排水路）
山中御殿平
通路に沿った石垣の検出はない
花ノ壇からのルート
町　道
帯曲輪遺構
行き止まり
基準点No.3
H=82.294
82.48
82.220
81.50
70
0
20m
S:1/300
0
10M

第51図　遺構検出状況



第52図　平成9・10年度整備箇所